

緒 言

昨年の「緒言」で取り上げたロシアのウクライナ軍事侵攻は、本年2月24日で丸一年が経過した。今なお、ウクライナの東部・南部では激しい戦闘がおこなわれており、市民を含む多くの人々が犠牲となった。ここまで戦闘が長引いている理由の一つに欧米諸国の武器供与が挙げられる。ウクライナ侵攻はロシアによる侵略戦争として、ウクライナのゼレンスキー政権を守るべくNATO（北大西洋条約機構）加盟国を中心に、欧米の最新鋭の戦車をはじめとする武器供与がおこなわれており、欧米との代理戦争の様相を呈しているなど、戦闘が泥沼化してきている。苦戦を強いられているロシアは、武器不足だけでなく、兵士の数も減少しており、兵員補充を民間の軍事会社ワグネルに依存するなど、なりふり構わぬ状況に陥っている。われわれは戦争がいったん始まったら簡単には終わらないことを歴史から学んでいるが、このまま戦闘が長期化してロシアの孤立化が鮮明になったとき、核使用という「禁じ手」が現実のものとなる危険性を持ち合わせている。

これまで長い間、反戦・反核を訴え続けてきたノーベル文学賞作家の大江健三郎さんが3月8日に88歳で亡くなった。半世紀以上も前に執筆されたルポルタージュ「ヒロシマ・ノート」「沖縄ノート」を通して、戦争が民衆にもたらす悲劇について詳細に語った。近年、戦後民主主義の優れた発信者が亡くなりつつある。戦争や核兵器がもたらす悲劇を知る広島、日本に生きる者として、そのことを常に胸にとどめて、行動することが大切である。

さて、これも昨年の「緒言」で述べたが、新型コロナウイルスの感染問題は丸3年が経過し、いまだ終息したわけではないものの、政府の対応が変わりつつある。すなわち、3月13日からマスクの着脱が個人の判断に任せられることになった。卒業式での非着用が容認され、5月8日には新型コレラ感染症の位置づけが危険度「2類相当」から季節性インフルエンザ並みの「5類」に変えられる。ウイルスと共存する形で日常生活を送る「ウィズコロナ」が求められるようになる。プロ野球の観戦などで、声出し応援が可能になったことや、小売業・外食産業・交通機関などでもマスク着用を求めなくなったことにより、感染が「終息」したと誤解する人々が増え、その結果新規感染者がさらに増加するということがあってはならない。今なお、国内の一日当たりの新規感染者は1万人近くいる。

以上述べてきたように、2022年度は戦争と病気で明け暮れた一年であった。この間に、多くの尊い命が失われたことを忘れず、それを回避するためにはどうしたらよいか、われわれは科学者の一員として、その責任を自覚しなければならない。

2023年3月15日

広島大学文学部附属内海文化研究施設
施設長 本 多 博 之

目 次

緒 言

岩国市立岩国学校教育資料館所蔵和古書分類目録

－「郷土図書」資料の部、並びに書名索引－……………妹尾 好信…… 1

宮崎県日南市榎原神社所蔵典籍目録稿

……………妹尾 好信・長友 禎治・北原沙友里…… 23

山口県文書館蔵「近藤芳樹日記」翻刻（十七）……………久保田 啓 一……（15）

九州出兵期毛利氏の交通政策……………中 原 寛 貴……（1）
（ ）は縦組で裏表紙から

広島大学文学部附属内海文化研究施設研究紀要投稿・執筆要項

広島大学文学部附属内海文化研究施設細則

広島大学文学部附属内海文化研究施設運営委員および研究員（令和4年度）